笑顔かがやく光っ子　みんなで育てる光っ子

学校便り

第３４９号
平成２７年１２月２５日

練馬区立光が丘第八小学校
校　長　　鈴　木　隆　志

「振り返る」を考える

副校長　後藤　大輔

平成２７年（２０１５年）がもうすぐ終わろうとしています。皆さんにとって今年はどのような年だったのでしょうか。１２月は一年の終わりということで、重大ニュースや年間ランキングのような一年を振り返る企画がテレビや新聞等でも目立つようになります。ここで「振り返る」ということについて考えてみたいと思います。

先日お亡くなりになった昭和の大横綱北の湖親方は、現役時代の取組を１番１番鮮明に覚えていたそうです。インタビュアーが過去のある取組について聞くと、取組の相手や勝敗はもちろん、取組の流れから決まり手まで答えることができたのだそうです。一方、プロの囲碁や将棋の世界では、対局の後、相手と一緒に感想戦というものを行います。１局を初手から振り返り、ある途中の場面で、他の手を指していたらどうだったかを検討し、よりよい１手を研究します。また棋士は、過去の自分の対局だけでなく、他の棋士の対局も頭の中に入っていて、それらの過去の記憶や記録から最善の手を考えて日々研究しています。

相撲と囲碁・将棋では１回の取組や対局にかける時間は全然違います。相撲は一瞬で終わることもありますが、囲碁・将棋は二日間かけることもあります。しかし当事者が過去を鮮明に覚えているという点では共通しています。１番の取組、１回の対局に向けて努力を重ね、必死に考えながら日々戦っているからでしょう。

学校生活での「振り返る」を考えてみると、よく行われているのは運動会等の行事の後に、感想文を書くことです。時間をかけて準備や練習を重ねた行事、嬉しい思いや悔しい思いをしたときほど、思いが溢れる生き生きとした感想文を書くことができます。

毎年６年生を対象に行われている全国学力・学習状況調査では、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れている指導を行っている学校の方が平均正答率が高い」という分析結果が報告されています。振り返ることで学習内容が定着していきます。本校でも授業に適宜取り入れています。

さて、光っ子たちがこの一年を振り返ったとき、思い出すのはどのようなことでしょうか。
「この一年間で思い出に残っていることはどんなこと？」
とお子さんに聞いたとき、どんな答えが返ってくるでしょうか。想像してから聞いてみるのもよいかもしれませんね。お子さんの意外な答えから、保護者の方が気付かなかったお子さんの頑張りに気付くこともあるかもしれません。

この時期にお子さんの一年間の頑張りや成長ぶりを見つめ直し、大いに褒めてあげたいものです。光っ子たちが、晴れやかな気持ちで新しい年を迎えることができるよう願っております。

最後に精神科医の香山リカさんの著書『言葉の力』から次の引用を紹介します。

＜「がんばってください」と言ったあとには、「がんばりましたね」とその成果を評価してあげることも大切だ。頑張ればかりを毎日のように言って少しも評価しないというのでは、言われた方は「まだ頑張りが足りないというのか」と自尊心を失い、相手への不信感をもつようになる。＞

光っ子たちの健やかな成長のため、学校も家庭も同じ思いをもって子育てを進めていきましょう。来年も本校の教育への御理解と御協力をよろしくお願いします。